

9月末から11月にかけて、市内各所で「くにさきアートフェスタ2016」のイベントが開催されました。国東半島芸術祭で設置された作品と関わった人達を中心となり、「文化・芸術によるまちづくりの推進」を合言葉に、市内の各種団体が連携して昨年からのスタートです。今年も、様々な視点からアートを切り取ったイベントがたくさん開催されました。その中から、一部のイベントをご紹介します。



国見町の向田海岸にある喫茶店「ことり」周辺で、「海辺の文化祭」が開催されました。この日は、フードブースに7店舗、ワークショップに3店舗の出店があり、来場したみなさんは、潮風を感じながら、穏やかな時間を過ごしていました。

海辺の文化祭

10月1日

国見町の岐部プロジェクトの解説で、野外コンサートを開催していましたが、あいにくの雨で教会内のコンサートとなりました。バオバブの澄みきつ

ペトロの森 ライブコンサート

10月22日



国見町伊美の「イミテラス」で、知的障がい・身体障がいのある作家が既存の美術文化に囚われることなく創作した作品を集めた展示会がありました。22日には、特別企画として、画家の二宮圭一さんが監督した「日常くめぶき園を訪ねて」の上映会と監督トークショーが行われました。

アート・ブリュット展

10月17・23日

アートツアーや催し物に合わせ、灯では石垣も、成仏では名物ピザなどのおせつたいを振る舞いました。

各プロジェクトでのおせつたい



た歌声が会場内を包み込みました。



国東町の成仏プロジェクトで、朝風心愛さんのコンサートが開催されました。昨年はあいにくの中でしたが、今年は、今年に恵まれハンドレットライブハウスからの光に包まれ、幻想的な雰囲気の中でコンサートとなりました。

ハンドレットライブコンサート

世界農業遺産認定3周年記念 「国東半島宇佐地域世界農業遺産シンポジウム」開催



世界農業遺産認定から3年経った今、さらなる活性化のため、「国東半島宇佐地域世界農業遺産シンポジウム」が11月1日(火)、アストくにさきで開催されました。シンポジウムの前には、世界農業遺産旭日プロジェクトとくにさき七島園振興会の現地視察も行われました。

基調講演では、総合地球環境学研究所の阿部健一教授が、「世界農業遺産『が』期待するもの」と題して、世界農業遺産の価値は認定地域によって決まると話しました。続いてのパネルディスカッションでは、女性パネリストが「女性視点での世界農業遺産の活用」について、「つながり」をキーワードに議論を展開しました。



▲くにさき七島園学舎



▲旭日プロジェクト



▲阿部健一教授の基調講演



▲パネルディスカッション

アックア キュウセツAQUA 国東オリーブ農園竣工記念式典



▲あいさつする大野会長



10月27日、国東町安国寺の常緑果樹研究所跡地の国東市農業団地で、キュウセツAQUA 国東オリーブ農園竣工式典が開催されました。式典では、キュウセツAQUA株式会社(本社福岡市)の大野博通代表取締役会長と三河明史市長が、最初の本を植樹しました。同社の使用面積は17ヘクタールで、今回整備したのは15ヘクタールで約3,200本を定植していきます。残りの農地は、子会社がミニトマトの栽培や、レストランを建設する計画もあります。大野会長は、「上下水道施設

を50年間維持管理してきましたが、事業拡大と地域貢献、社会貢献を考え、国東市の農業団地に参入しました。会社方針として、やるからには日本一を目指して、ゆくゆくはこの農園で1万本のオリーブを栽培したい。」と話していました。

なお、市内のオリーブ栽培面積は、全生産者合わせて8ヘクタール(平成27年実績)ですが、キュウセツAQUAの参入により一挙に3倍程度になる見込みです。